



The TKF TIMES

高崎経済大学附属高校新聞部 7月24日(金)発行 7月号②

経菱祭 大成功!!

輝きまぶしい2日間



平成27年7月10日(金)〜11日(土)に本校で第11回経菱祭が行われた。当日は多くの学生や保護者など約3000人が高経附を訪れ、会場は終日大盛況と成功に終わった。また、後夜祭では特に優秀な成績を残したクラスや団体が表彰されていた。今回はそれらの代表者に取材を実施し、彼らが多くの来場者を惹きつけた理由を調査した。

最優秀賞



3年2組では「カジノをかじろう」をテーマとして、「R推進法案に関する展示」と3つのカジノゲームの体験を実施していた。「R推進法案」とは日本でのカジノを含む複合型リゾートの開発を認める法案で、現在国会で審議され話題になっている。もしカジノができれば国に新たな収入が期待される中、依存症や周辺地域のイメージ低下など様々な問題が予想されている。展示ではそれに関する様々なメ



▲カジノゲームを楽しむ様子

「R推進法案が思い浮かびました。あと、カジノが楽しそうだなと思う」からです」と話し

2年5組 来場者興味津々

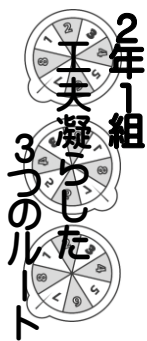
校舎2階の中央階段横の教室では、2年5組が「宇宙と科学」をテーマに「SSS (star・science・shine)」と題してプラネタリウムの

実演とクイズラリーを実施していた。それらは多くの来場者の興味を引いていたが、この目玉となっていたのが「Oho!」という技術

「R推進法案に賛成か、反対か」という質問への投票があり、最終的な来場者の回答は全約450票中、賛成が約300票、反対が約150票という結果となった。ゲーム体験に関しては、チップを賭けて自分のチップを増やし、最終的なチップ数に応じて景品がもらえるというものだった。今回の企画を設定した理由を発案者の関口知代さんに伺ったところ「模擬店の抽選に落ちてしまい何をしようか迷ったときに、最近話題の

「Oho!」は見た目が非常にきれいで、近年 SNS 等で流行していることもあり、来てくれた。また、最優秀賞を受賞した感想については「あわよくば入賞と思っていたので、最優秀賞を受賞できて本当に嬉しかったです。特に当日ギリギリまで内装に力を入れていたので、その成果が現れたと思います」と笑顔で語ってくれた。(長澤)

優秀賞



校舎3階の最奥の教室では、優秀賞を獲得した2年1組が「人生ゲーム」一生の輝き」というゲームを実施していた。これは来場者自身が人生ゲームを体験できるというもので、スタートした参加者は最初にサイコロを振り、人生の行く先を決める。分岐するルートは「青春ルート」「世界旅行ルート」「未知との遭遇ルート」の3つになっており、それぞれで「壁ドン」を体験できたり、ファンタジーの世界で敵と戦ったりと多くの来場者が楽しめる内容となっていた。そこで今回

「ルートを選択する来場者」1組の生徒に魅力的な内容を生み出すことができた理由を聞くと「クラスを3班に分けて、それぞれの個性を生かしたルートを作ったからです」と答えてくれた。また入賞した感想については「個々が忙しくて作業を進めるのが大変でしたが、結果が伴ってくれてうれしかったです」とのことだった。(久保)

▲手に持てる水の実験



多くの来場者の興味を引いていたようだった。また肝心のクイズラリーもただ問題を出題するだけでなく、解説用のスライドや宇宙空間を旅できるソフトなどを提供し、来場者が問題にた

だ悩むだけ、という状況を減らす工夫をしていた。今回の実験を発案したという千葉耀太君にその理由を伺うと「個人的に以前から気になっていたというのと、来場者の心を見た目で惹きつけられるインパクトが Oho! にはあると思ったからです」と答えてくれた。さらに委員長である古屋優輝君に受賞時の感想を伺うと「人数が少ない中でしっかりと理系オナーらしさを

出していかれたと思います。努力が報われてとてもうれしいです」と語ってくれた。(千葉)

パフォーマンスコンテスト 笑いに包まれた会場

経菱祭では伝統的にパフォーマンスコンテストが開催され、有志の生徒たちがベストパフォーマンスを目指して経菱祭の2日間をより一層盛り上げてきた。そして本年度も5組のグループがパフォーマンスとして名乗りを上げ、ショートコントやダンスなどで生徒たちを大いに沸かせていた。どのグループも生徒の心を強く惹きつけるようなパフォーマンスだった。その中でも本年度のベストパフォーマンスに選ばれたのは吉田瀨名君、山田博武君、小池貴大君、松島波知君、佐藤恭平君の3年生5人で構成されたグループ「嵐」だった。彼らのパフォーマンスは4人のメンバーが次々とボケるのに対してもう1人のメンバーがツッコむというショートコント方式で行われ、次々とぶ多様なボケやテンポの良いツッコミで会場の生徒たちの笑いを誘っていた。彼らに出場のきっかけを



▲嵐のパフォーマンス

歌うま王座は誰の手に?

歌うま王座決定戦は10日に予選、11日に決勝と2日間わたって開催され、高経附の歌唱力自慢が熱い戦いを繰り広げた。特に大きな盛り上がりを見せた11日の優勝決定戦では、15組総勢18人の中を勝ち抜いた9人の猛者たちが渾身の歌を披露し、多く(裏面へ続く)